

# 学校評価「学校関係者評価書」

(自己評価書を含む)

【評価の基準・・・4段階評価】 4・・・期待以上 3・・・ほぼ期待通り 2・・・やや期待を下回る 1・・・改善を要する

項目	評価指標(具体的な取組)	生徒	保護者	教職員	地域	総合評価	自己評価(改善の方策)	
自律	① 生徒は自分で考え、判断し、実行している。	3.2	3.0	2.3	3.8	3.1	<教育目標;自律> ①;生徒が成長する上で、とても大切にしなければならない項目である。生徒会活動、係活動、行事、そして日常の中で、生徒が自分で判断し、実行するという機会を多く与えたり、設定していく。 ①;指示されたことへの取組は良いが、自己判断力、行動力については育てていかなければならない。そのためにも、そのような機会や任せられる場面をさらに増やしていく。 ①;生徒指導部として、校則検討委員会を発足し、自校の校則について主体的に考える機会をつくる予定である。 ③;現在の日本の社会状況の影響もあると思うが、子供たちが、将来に希望をもって中学生の時期に勉学に励むことができるよう、進路指導を充実させたり、より幅広い視野をもたせる。 ③;キャリア教育を含め、各学級や学年集会、全校集会で夢や目標、自分の将来等について、考える話をもっとすべきである。 ③;将来の夢はあるかも知れないが、その実現に向けた考えが不足していると思う。学級活動や総合的な学習の時間と関連付けて指導できればと考える。 ・生徒たちに、企画・立案、実践、反省の流れを経験させるような取組をさせる(失敗から学べるような経験を含む)。そして、教員側も失敗をある程度容認するようにする。 ・授業においては生徒が自らやってみたい、挑戦したいと思えるような教科指導をしていきたい。また、普段の生活では他の人のことを考えることや自分の行動を振り返って他がどう思ったか等、自身について様々な視点から考えさせるようにする。 ・多くの生徒は、規律を守り、自分の夢の実現に向けて頑張る姿が見られるが、時折心ない言葉を発する生徒や無気力な生徒もいるので、その都度、指導や声掛け等を行っていく。そのために、時間に余裕をもって教室に入り、生徒たちの様子を観察しながら、時間の共有に努める。 ・進路指導の在り方については、教員側も最新のものを学んでいかなければならないと思う。今の若者の職業観や人生観、社会観の変化を見るとそう感じる。 ・生徒を信じる場面と指導すべき場面の使い分けが必要である。 <教育目標;協調> ②;いじめへの対応については、担任を中心とする人間関係づくりや教育相談等を活用した早期発見に努める。また、初期対応を組織で行うことも重視したい。 ②;小さなことがいじめにつながる意識を高め、各学年を中心に初動を大切に指導できるような組織を構築する。 ②;楽しく過ごすためには、ルールを守ることが大切であるということをもっと徹底した方がよい。また、35時間という道徳の時間を十分活用する。 ・生徒同士が非常に仲が良く、高め合う関係ができています。今後もいじめを生まない関係づくりに引き続き取り組み、生徒間では、いじめの認識がなくても些細なことがいじめに発展するということを伝えていく。 <教育目標;叡智> ①;授業でのパソコン使用は徐々に進んでいるが、令和以前の進め方の良い部分もあるので、融合させた、より効果的な授業を進めたい。 ①;授業では、ICT機器を活用して授業を行うように工夫している。Jamboardを使つての英作文指導やGoogleFormを使つての小テストを行う。また、学年の総合では、SDGsのプレゼン発表でGoogleスライドを使つて発表し、共有機能を使つて班ごとにプレゼンを行う。 ①;授業で使用するものが少なかったため、導入の部分では必ず使用するなど工夫をし、上手に活用する。 ②③;タブレットの活用の前に提出物を出すことや家庭学習に取り組むことを習慣付けなければならない。 ・課題は必ず見届け、中でも配慮が必要な生徒への課題については、本人・保護者と相談して対応する。 ・英語科の授業では、デジタル教科書を使用して日々の授業を行っている。また、表現活動においては、タブレットを使用し学力向上に役立っている。 ・家庭学習は毎日チェックし、提出状況を確認しているが、未提出者への声掛けが十分ではないので、改善していく。 ・学力向上は、主に低学力の生徒への指導が課題であると考えている。基礎問題の反復練習などを取り入れることができないか検討する。 ・家庭での宿題にPCを使用する機会をさらに増やし、情報を公開していくことが大切だと感じる。	
		② 生徒は健康を意識し、事故や災害等から身を守る方法を知っている。	3.4	3.1	2.9			3.4
		③ 生徒は将来の夢や希望をもち、その実現に向けて考えている。	3.0	2.7	2.4			
協調	① 生徒はみんなで協力して活動している。	3.5	3.1	2.9				
	② 生徒ははじめもなく、楽しい学校生活を送っている。	3.8	3.4	3.1				
	③ 生徒は時間を守るなど、集団生活のルールやマナーを守っている。	3.4	3.2	2.8	3.6			
叡智	① 私は授業でパソコンやOA機器等を活用している。	3.5	3.0	3.2	3.8			
	② 生徒はタブレットを活用し、学力向上に役立っている。	3.3	2.9	2.9				
	③ 生徒は家庭学習にしっかり取り組み、課題や宿題等も忘れずに提出している。	3.3	2.9	2.5				
学校生活	① 私は生徒の心配事や悩み事の相談によくのっている。	3.2	2.9	2.6	3.6			
	② 生徒は生徒会や学年の行事、部活動等に意欲的に取り組んでいる。	3.4	3.2	3.0	3.8			
	③ 生徒は地域の行事やボランティア活動に積極的に参加している。	2.0	2.2	2.1	3.2			
その他	① 学校の教育方針や教育活動のねらいが保護者や地域に説明されている。		2.2	2.6	3.4			
	② 私は学校の教育後援会(PTA)活動に積極的に関わっている。		2.1	1.9	3.8			
	③ 校内外の施設・設備は整備が行き届いている。		3.1	2.9	3.4			
	④ 学校は行事等の情報をホームページやシグフィーで積極的に公開している。		3.2	3.6	3.8			
学校経営	① 学校は校長のリーダーシップが発揮されている。			3.2	3.8			
	② 学校の教育目標を概ね達成できている。			2.7	3.4			
	③ 学校は生徒の学力向上に取り組んでいる。			2.6	3.2			
	④ 学校は地域の人材や施設等を教育活動に生かしている。			2.8	3.8			

自己評価(改善の方策)

・家庭学習の必要性や提出期限厳守の重要性を生徒にしっかり伝える。  
 ・タブレットの使用については研修を深め、学力向上はもちろん、生徒一人一人が向学心を高められるよう、工夫していく。

<学校生活>  
 ①;相談にはのっているが、話を聞くことしかできなかつたのでアドバイスなどができるようにする。  
 ③;生徒会主催のボランティアは職員間では話があるものの、実行できていないもの(こと)が多い。計画・立案をしっかりとする。  
 ・行事や係活動に関しては、見直しをもたせながら活動させ、うまくいってもいなくても振り返る時間を設け、次につなげていく。  
 ・ボランティアクラブでは、コロナ禍で活動が制限され、それぞれの活動の募集人数が少なくメンバー全員が参加することはできなかったが、参加したメンバーは積極的に活動することができた。  
 ・学校と地域が連携し、校内放送などを利用して行事の宣伝やボランティア活動の案内・報告等の取組を広めていくことも有効ではないか。  
 ・生徒たちの言えない心配事を引き出し切れていないと感じるが、言葉の少ない生徒たちに特に気を配るよう心掛けたい。

<その他>  
 ②;生徒指導や部活動において、保護者と連携をとり、生徒の成長や活動のみ見守りができている。コロナで活動が制限されているからこそ、職員一人一人が保護者との連携を密にしていく。  
 ③;ほぼ期待通りの3評価だったので、来年度は4評価に近づこう取り組んでいく。また、生徒総会で出てきた要望に対し、優先順位と期限を決めて素早く対処していく。  
 ④;全体的に高評価だったので良かった。来年度への改善策として、学校ホームページの「学校の様子」欄の掲載内容を充実させたい。  
 ④;学校の様子をホームページに写真付きで掲載しており、どんな活動をしているのか、保護者にとってもわかりやすく、読みやすい内容になっている。シグフィーによる緊急時の連絡も大いに活用されており、いち早く情報を知ることができるので、今後も継続していく。  
 ・教育後援会活動には、全く関わることができていない。自ら情報収集をして行動すべきであったと反省している。  
 ・コロナ禍ではホームページやシグフィー等が有効であるが、学校現場を保護者が直接目にする機会を増やしていく。  
 ・学級担任として、学級通信等で生徒の学校での様子を紹介したり、返信欄にコメントを返して、個々の生徒の様子を伝える等、継続していく。

<学校経営>  
 ②;教育目標達成のための意識は、普段はやや低いと、今後さらに意識して教育活動に取り組んでいきたい。  
 ③;学力向上に関する取組は個人では行っているが、学校全体としての取組が不十分に感じるので、新たな取組を模索していく。  
 ③;教科別コンクールを実施しているので、実施方法を改善して、より生徒のための活動となるよう工夫していく。・総合的な学習の時間や道徳、学級活動の中に地域人材を活用できないか検討していく。  
 ③;学力向上に取り組んでいるが、基本的な学び方というか、学年や学校で最低限させることが共通理解されていない気がする。部活動を二の次にして、宿題や課題を提出させることに力を入れるとか学校や学年で取り組むことが学力向上につながるのではないかな。  
 ・全職員で、自分たちが実践していることや自分たちが指導している生徒に対して、責任と誇りをもつことを共通理解していく。  
 ・学習コンクールの取組については、「個」の学力に応じたテスト内容にしたり、生徒自身が成長の変化について理解できるようなものにしていきたい。

アンケート結果及び考察、経営の総括

学校運営協議会委員の総括

○教育目標  
 自律①;教師の評価はかなり低かったが、地域の方々から高評価をいただいた。まだまだ、可能性のある生徒が多いので、指導の機会を増やしなが、いわゆる主体性を高められればと思う。  
 自律②;ほぼ想定通りの結果が表れたが、1月の防災訓練で話をしたように「予想外を想定した」行動ができるよう、また、令和5年11月19日(日)に実施される都城市総合防災訓練と併せて、危機意識を高めていきたい。  
 自律③;全体的に意識が低い。学年による差も否めないが、低学年になるほど意識が低い。キャリア教育の観点から、学年に応じた目標を立て、系統だてて取組を実践させるとともに、自身の将来の夢や希望をもたせるためのキャリア教育や進路指導を全ての教育活動の場面で充実させる必要がある。  
 協調;全体的に3.0以上の評価が多く、特に②の生徒評価及び③の地域評価が高く、好ましい傾向である。ただ、教職員から見れば、まだまだ改善の余地があるという見解なので、現状に満足することなく、継続して指導していきたい。また、もっと全職員で責任もって指導していくべきではないかと考える。  
 叡智;一人一台タブレットの活用が浸透し、ICT活用も高まってきたため、軒並み高評価を得た。今後この取組が学力向上や家庭学習の習慣化に効果が表れるよう、さらに検証していきたい。また、保護者は、授業を見る機会が少なく、授業でPCを使っているかどうか判断するのが難しかったのではないかなと思われる。

○学校生活  
 ①②;地域の方々の評価が高く、良い傾向にあるが、それとは反対に③については、低い数値となった。ボランティアクラブはおおよそ70名の登録があり、9つの行事について依頼があったが、コロナ禍による中止を含め、結果的に参加数が低くなったことも大きな要因の一つと思われる。コロナ禍の終息を期待したいところである。

○その他  
 ①;保護者が説明不足を感じられており、説明手段・方法の工夫が足りなかつたと反省している。コロナ禍を含め、不測の事態においても、必要最小限のことが達成できるよう、備えておかなければならないと痛感している。  
 ②;教育後援会活動は、コロナ禍をきっかけに、令和3年度から抜本的な改革に取り組んでいるため、ほぼ予想通りの結果である。教育後援会のあるべき姿を再度見直し、生徒・保護者にとってより良い組織になっていくよう、さらに検証を深め改善していきたい。  
 ③;ホームページやシグフィーはかなり活用できた。今年度、学校通信をとりやめ、ホームページによる情報発信を積極的に行ったが、令和4年4月初おおよそ16万だった閲覧数も令和5年1月には33万を超え、非常に効果的であった。シグフィーにおいてもタイムラグがなく、タイムリーに発信できることも好評であった。また、行事等の情報を写真付きでホームページに掲載しており、素晴らしいと感じる。  
 ・コロナ禍で、学校と保護者の関わりが少なくなっている。仕方がない面もあるが、保護者は残念に思っていると思うので、今年度の桜凜祭のように保護者が行事に参加できるような工夫が必要である。  
 ・教育基本方針はとても大切だが、それを保護者が理解していないのは問題である。年度当初だけでなく、大きな行事前などでも伝えていくことが必要である。  
 ・学校の教育方針を明確に説明していたとして、伝わっているかどうか、こちらから測ることは難しい。コロナ禍で教育後援会活動が制限されているので、評価が低いのは仕方ないと思われる。

○学校経営  
 ・学校経営については、教職員と地域の方々を評価の対象としたが、①と④で高評価を得ることができた。4項目とも教職員の方が低評価であったことは反省すべきと考える。特に地区の学力診断テストにおける本校生徒の結果は、全体の半ばから下位に位置しており、なかなか成果を出すことができていない。そんな中で、第3学年の英語においては、地区でトップの成績を収めることができたので、他教科でも成果が期待できると考えられる。

\* コロナ禍においては概ね期待どおりの成果はあがっている。しかしながら、改善する点もあり、一つずつ着実に改善点を見だし、実施していく必要があると思う。  
 \* 学力向上が教育目標の一つとなっており、様々な取組をされていることが分かる。特に英語と理科についてはその成果も出ており、他教科への波及効果が期待できる。日本の人口は減少し続けているが、国内外の経済力を維持するためにもますます外国人労働者が増えていっているので、その現状を考えると外国語を話すことが必要であり、英語教育にさらに力を入れていくことが大切であると考ええる。平等性も大事だが、世界で通用する人材を、地域をあげて育成することも必要ではないかな。  
 \* 日本の大学ランキングが下がり、研究者も少なくなっている。都城には歴史のある企業も多数あるので、連携して学校教育に取り組んでいければと思う。他の市町村では、地域の人材を活用した授業のサポートを行っているところもあると聞いている。学校運営協議会の人脈を活用し、授業において、教師のカーパーをしてくれるボランティアを探したり、授業に入って指導の補助をすることができるようシステムを構築する等、教育に関する環境整備をもっと進めていくべきである。  
 \* 働き方改革の一貫として、部活動の地域移行が進められているが、部活動を通して学んだことも多く、子供も予想以上の力を発揮する。部活動の在り方が変わっても、そのような経験はなくさないようにしていくことが大切だと思ふ。  
 \* とにかく、中学生として大切なのは、生徒が毎日元気に楽しく学校生活を送ることができると次の進路に向けて、勉強やスポーツを頑張ることだと思ふ。前者の評価が高いことはとても良いことだと思ふ。これからもよい点を伸ばし、足りないところは改善していく。その協力をしていきたいと思ふ。  
 \* 学校のホームページはよく更新されていて素晴らしい。

